

## TRANSITION TO HEALTH (077)

### “ 新型コロナウイルス感染 ③ ”

～ 重症化させる基礎疾患としての生活習慣病 ～

#### はじめに

現在、**新型コロナウイルス**特別措置法に基づく「**緊急事態宣言**」が発令されている。悲しいことに今回もこの原稿の執筆中に訃報が舞い込んできた。4月23日、女優の**岡江久美子さん**が新型コロナ肺炎で亡くなられた。所属事務所は「**早期乳がん**の手術と**放射線治療**で免疫力が低下したことが**重症化**した原因」とみられるとのコメントを発表していた。ところが、某報道番組で或る癌専門医が「2月初めまでの放射線治療での免疫力の低下はあり得ない(体表・局所ゆえ)」とコメントしていた。また、日本放射線腫瘍学会の見解では「**早期乳がん手術後の放射線治療**では免疫機能の低下はほとんどない」とのことである。しかし、「**癌**は体の極端な**栄養代謝異常**の状態であり、**癌細胞**や**癌の腫瘍**は**癌の一症状**として顕在化したものである。腫瘍を手術で切除しても、**癌細胞**を**抗癌剤**で叩いても、目に見えぬ**癌細胞の芽**を**放射線**で叩いたつもりでいても、本体の**栄養代謝異常**を改善しない限り**癌の芽**は消えず、いずれ再発・再燃する」と私は考えている。

#### 癌(がん)は生活習慣病の王者

癌が稀な病気であった1900年代初頭と癌が増え続けた20世紀後半から現在までとの決定的な違いは“**食生活の違い**”である。それを人は“**食生活の欧米化**”という。高血圧や糖尿病などのいわゆる慢性疾患だけが生活習慣病ではない。**癌**は、**悪性新生物**という“**生活習慣病の王者**”である。癌急増の原因は「**超高齢化**」ではなく、「**生活習慣(特に食習慣)の誤り**」である。“『**誤った食習慣**』の『**継続期間の長さ**』が『**癌の発症**』と相関する”のである。『**癌**』という文字は、「**誤った食品**を**山**のように食べると**病**(やまい)になってしまう」ということを表している。「**新型コロナ・パンデミック**」の今、癌で診療中の方々は、“**3密の回避**”“**不要不急の外出自粛**”等々はもちろんのこと、“**食生活の改善**”にも努めて頂きたいものと、私は願っています。

#### 「誤った食習慣」が血管の慢性炎症を起こす

WHOの専門組織・**国際がん研究機関(IARC)**が、『**ハムやソーセージ、ベーコンなどの加工肉の発癌性**の評価を、**喫煙**や**アスベスト**と同じ5段階中の**最高レベル**である』と発表したのは**2015年10月**のことであった。

**ウイルス性肺炎を重症化させないために**

- \* 健康的に**高齢化**
- \* 持病(基礎疾患・慢性疾患)を持たない  
高血圧⇒心不全 糖尿病 腎不全 ガン
- \* 喫煙しない **直ちに禁煙!**
- \* **インフルエンザワクチン**を**打たない**(細胞性免疫低下↓)
- \* **解熱剤・鎮痛剤**を多用しない(飲まない)  
(薬で解熱させると⇒免疫力低下↓・ウイルス増殖↑)  
(血液脳関門の脆弱化・損傷⇒ウイルス性髄膜炎)

**生活習慣改善・薬を飲まない!**

また、カリフォルニア大学サンディエゴ校医科大学院人類進化生物学のアジット・ヴァルキ教授らのグループが

『人間が赤身肉や乳製品を摂取すると、哺乳動物の細胞のアンテナである糖鎖の末端のシアル酸<sup>イ・ファイブ・ジーン</sup>Neu5Gcを吸収して血管内皮細胞の周囲に蓄積させてしまい、ヒトはこれを自分には存在しない異物と認識して抗Neu5Gc抗体を産生し、免疫反応を起こして、様々な疾患にかかわる慢性炎症を起こし、心筋梗塞や癌を発生させてしまう』ことを突き止めた、と4年前にお伝えした。このアジット・ヴァルキ教授の研究、糖鎖、哺乳動物のシアル酸<sup>イ・ファイブ・ジーン</sup>Neu5Gc、人間のシアル酸<sup>イ・ファイブ・アセテート</sup>Neu5Acについては『健康通信しずおか No.46~49 2016年3月~6月』に詳述しましたので再度確認してみてください。



## 慢性炎症を起こした血管を新型コロナが攻撃する！

新型コロナウイルスは、人間の細胞のACE2受容体に結合することで感染するが、この受容体は特に肺や小腸の上皮細胞に大量に存在しているといわれる。アジア人男性の肺では、白人・黒人男性の5倍多く存在しているとの情報については前々号で紹介した(右)。実は、このACE2受容体は、血管のある場所ならばどこにでも存在し、脳にも心臓にも肝臓にも腎臓にも、皮膚の下の血管にも存在するのである。

中国の研究チーム からの情報 2020.02

**ACE2受容体** の数は  
白人・黒人男性 **アジア人男性** アジア人女性  
**1 : 5 : 2.5**

---

コロナウイルスの侵入経路  
“ACE2受容体”の局在  
”血管“の存在するところのすべて  
肺(→肺炎)だけではない  
脳、心臓、肝臓、腎臓、小腸・大腸、皮膚・・・など  
すべての全身臓器

新型コロナウイルスのターゲットは人間の血管内皮細胞の膜の表面にあるACE2受容体である。「食生活の誤り」などにより、すでに血管に慢性炎症が起こってしまっていると、感染により慢性炎症はさらに悪化・重症化する。肺炎だけでなく、腸炎、劇症心筋炎・心不全・心停止、脳梗塞、肝炎、腎炎、多臓器不全、小児においては川崎病に似た症状をも起し得るのである。

## ウイルス感染に負けない食事

新型コロナウイルスはヒトの血管内皮細胞の受容体：ACE2に結合することによって感染する。この時、我々の血管が健康であれば、自然治癒力・自己免疫力でウイルスを撃退することができるであろう。ところが、喫煙や肉・乳製品の過剰摂取などの生活習慣の誤りにより、すでに血管に慢性炎症が起こってれば、重症化する可能性があるということである。われわれ地球人は、「太陽エネルギー」によって生かされている。人間は「光合成」をすることができないので、「光合成」をする植物に依存・従属しているのである。人間は植物を食べることによって、間接的に「太陽エネルギー」を戴き、生かされているのである。牛や豚は肉食ではなく草食である。サバンナのライオンは肉食でシマウマを食べるが、先ずその内臓(腸)を食べることによって、間接的に草食をしているのである。右に『「ウイルス感染に負けない食事は?」』を掲げたが、植物は、有害な太陽の紫外線から身(実)を守るために、赤・緑・黄・紫などの色々な鮮やかな色をしている。この色素は抗酸化物質であり、果物を食べるときは皮ごと食べるのが基本である。「新型コロナ・パンデミック」の今、肉食に偏ることなく「抗酸化力」「活性酸素除去力」「解毒力」を有する「菜食」「和食」を多く取り入れることをお勧めします。

ウイルス感染に負けない食事は？

肉(牛・豚・羊など) 乳製品	菜 食
免疫力を高められない (抗酸化力・活性酸素除去力・ 解毒力が無い)	抗酸化力 活性酸素除去力 解毒力
肉食は消化吸収に膨大なエネルギーを使い、免疫に十分なエネルギーが廻らない。	↓ ”免疫力”を高められる
今は 野菜、果物、きのこ、海藻、穀物など 菜食・和食を多く取り入れよう！	

## おわりに

重症化リスクとしての「高齢化(高齢者)」は避けられないが、健康的に「高齢化」することは可能である。2か月ほど前までは「若年者は罹らない」「若年者は重症化しない」などといわれていたが、幼児期を過ぎた若者は免疫力が付き、また、中高年者のように「生活習慣病」をまだ患っていないからであろう。これから「緊急事態宣言」下でのゴールデンウィークが始まる。「3密回避」「不要不急の外出自粛」「休業要請」等々、どんなGWになってしまうのか? 今、メディアは「ワクチンの早期開発」に期待を寄せているようだが、実は「ワクチン」にも問題がある。次号では、「免疫」「ワクチン」についてお話することにしましょう。(再掲)

ウイルス性肺炎を重症化させないために

- \* 健康的に高齢化
- \* 持病(基礎疾患・慢性疾患)を持たない  
高血圧⇒心不全 糖尿病 腎不全 ガン
- \* 喫煙しない **直ちに禁煙!**
- \* インフルエンザワクチンを打たない(細胞性免疫低下)
- \* 解熱剤・鎮痛剤を多用しない(飲まない)  
(薬で解熱させると⇒免疫力低下・ウイルス増殖)  
(血液脳関門の脆弱化・損傷⇒ウイルス性髄膜炎)

生活習慣改善・薬を飲まない!